

教育実習指導者の 専門性



～豊かな省察の手がかりのために～



> はじめに

東京学芸大学では、学校現場で教育実習指導を担当する先生方が自らの指導を省察したり、教育委員会等が研修会場で教育実習指導を取り上げたりする場面を想定し、教育実習指導者の資質・能力に関わる指標として「教育実習指導者の専門性」を開発しました。

小学校、中学校、高等学校等に勤務する先生方は、広く教育実習生を受け入れる機会があり、教育実習指導者として、教員養成の一部を担っているといえます。教育実習を経験した学生からは、教育実習をきっかけとして、教職への意識や意欲が高まったという声をよく耳にします。その一方、教育実習指導については、指導観や指導方法等が伝聞で引き継がれたものに依拠しがちである、初めて教育実習指導を行う教員が教育実習指導についての手がかりが必ずしも十分ではないなど、課題を指摘する声を耳にすることがあります。

開発した「教育実習指導者の専門性」は、全国の国立教員養成大学・学部の附属学校で教育実習指導に奮闘されている先生方の声から抽出したものであり、実践者による実践者のための指標の開発に挑戦しました。広く学校現場の教育実習指導に資することを願っています。

> 「教育実習指導者の専門性」における教員の資質・能力のとらえ方

教育実習指導者の資質・能力を、「実践者としての資質・能力」、「教育実習指導者としての資質・能力」、「教育実習指導者としての姿勢・態度」の三つの項目を柱として構成し、「教育実習指導者としての姿勢・態度」が「実践者としての資質・能力」、「教育実習指導者としての資質・能力」を支えているととらえています。「名選手、名監督にあらず」という言葉があります。実践者としての資質・能力と教育実習指導者の資質・能力とは、あえて区別してとらえています。

> 項目1

実践者としての資質・能力

教育実習の指導であることを踏まえ、主に学習指導と生徒指導に関わる資質・能力を中心とし、方針と見通しをもち、子どもへの実践とふりかえりを行うなど、模範となりうる学習指導力、生徒指導力を備えている姿

> 項目2

教育実習指導者としての 資質・能力

学生の意図、力量、特性等を踏まえ、状況に応じ、多様な知見、方略をもとに、助言、評価を行う力を備えている姿

> 項目3

教育実習指導者としての 姿勢・態度

学生が成人であることを踏まえながら、人権感覚を備え、対話を通して、実習生の意図、力量、特性等を探り、それらに応じた指導を行おうとする姿

教育実習指導者の専門性



▶ 項目1 実践者としての資質・能力

1. 学習指導に関わること

(1) 授業構想に関わること

- ① 授業を行う教科・領域、単元の特性を、教育の目標と関連付けながら理解している。
- ② 児童・生徒の学習内容を、単元の流れを意識しながら整理、精選して、年間指導計画等を作成している。
- ③ 児童・生徒の興味関心を高める、教材の研究や授業の構想を、学習内容の本質を大切にしながら行っている。
- ④ 児童・生徒が主体的に課題を解決しようとする場を設定している。
- ⑤ 児童・生徒のいろいろな反応や誤った認識等、多様な状況を想定しながら授業を構想している。

(2) 授業実践に関わること

- ① 授業のねらいを児童・生徒と共有しながら、授業を進めている。
- ② 児童・生徒の実態を踏まえながら、授業のねらいに迫る問いを生み出している。
- ③ 児童・生徒の言動を受容しながら、対話的に学び合う授業をすすめ、児童・生徒が主体的に課題解決に向かえるようにしている。
- ④ 児童・生徒の学習状況に応じて、指導を修正している。(軽微な修正)
- ⑤ 発言の板書やノートの記述等をもとに、児童・生徒が学びの振り返りができるようにしている。
- ⑥ 困難を抱えている児童・生徒に寄り添い、その学習を粘り強く支援している。
- ⑦ 授業内外での危険な状況に気づき、安全のための指示を適切に行っている。

(3) 評価に関わること

- ① 児童・生徒の学習状況を把握するための評価場面、評価法、評価規準を設定している。
- ② 児童・生徒の学習状況を踏まえて自身の授業を省察し、学習改善、指導改善に繋げている。

2. 生徒指導に関わること

- ① 児童・生徒に寄り添い、受容的かつ寛容的に対応し、個々の実態に合わせた手立てをとっている。
- ② 対話を通して児童・生徒の成長や変容等に気づき、信頼関係を築いている。
- ③ 児童・生徒に、わかりやすい言葉で意図を伝えたり、指示・助言をしたりしている。
- ④ 安心して過ごせる学級集団をつくり、児童・生徒が所属感、安心感を持てるようにしている。

3. 教師としての姿勢、働き方に関すること

- ① 児童・生徒の目線に立ちながら、教育的愛情を持って指導している。
- ② 特別なニーズを持った児童・生徒に対応するために、個々の実態に合わせた声かけや支援を行っている。
- ③ 教師としてのやりがいを感じつつ、自身の資質・能力を客観的にとらえ、向上心をもって職務に取り組んでいる。
- ④ 社会の変化や学校をめぐる状況の変化を受けとめて、さまざまな問題に柔軟に対応している。
- ⑤ 他の教員や保護者と情報を共有しながら、互いに連携して指導にあたっている。
- ⑥ 教育の効果と時間の効率のバランスを考えながら、学校の業務にあたっている。
- ⑦ 児童・生徒や学校の諸問題に対し、教師間に対話をはかり、組織的に対応している。
- ⑧ 社会人としての見識を持ち、学校に関わるさまざまな人や組織と良好な関係を築いている。

➤ 項目2 教育実習指導者としての資質・能力



1. 学習指導に関わること

(1) 学習指導案作成に関わること

- ① 実習生が授業を行う内容について、教育実習指導者としての立場から、その学問的な背景や面白さ、それを学ぶ意義等を伝えている。
- ② 実習生の学習指導案について、具体的な授業場面を想定したり、実践事例を参考にしたりしながら、コメントしている。
- ③ 実習生の強みを生かした授業の構想について提案している。
- ④ 実習生の提案に対し、その思いやねらいに寄り添いながら、提案の良い点や問題点を具体的な根拠をもって指摘している。

(2) 授業指導に関わること

- ① 実習生の授業における実習生や児童・生徒の言動等をとらえ、それらに対し分析的な視点をもって説明したり、助言したりしている。
- ② 実習生の強みと課題を考え、具体的な方策を助言したり、やって見せたりして、実習生の意欲を高めている。
- ③ 実習生の実態や背景に応じて、授業に関する多様なアプローチを提案している。
- ④ ICTの活用方法やさまざまな教材・教具等を提案し、実習生が授業に生かせるようにしている。

2. 生徒指導に関わること

- ① 児童・生徒の発達段階の特徴等について、実習生に専門的な知見を伝えている。
- ② 実習生が「生徒指導」の意義を理解できるようにするために、具体的な事例を説明したり、実践したりしている。
- ③ 学級を「経営する」という意識を高めるために、実習生に学級経営のあり方を伝えている。
- ④ 児童・生徒とのよりよい関わり方について、実習生に具体的に指導している。

3. 実習生の評価に関わること

- ① 実習生の成長や課題を見とり、根拠を示しながら、実習生の指導力向上に資する評価を行っている。
- ② 実習生が、授業実践の自己評価をもとに自身を客観的にとらえられるように促し、その成長を支えている。
- ③ 実習生に、教育実習の評価の観点を伝えながら、その成果を価値づけたり、課題となることを示したりしている。

4. 教育実習生の学びを支える手だてに関わること

- ① 実習を進めるために必要な情報を示し、実習生が目標やスケジュールを理解しながら見通しを持って取り組めるようにしている。
- ② 実習生相互が協働的に取り組む場をつくろうとしている。
- ③ 実習生が抱えている不安を把握し、それぞれの状況に応じた指導、助言をしている。
- ④ 実習指導者自身の児童・生徒観、指導観、教科観、学校観等を言葉にしてわかりやすく伝えている。

5. 組織、働き方に関わること

- ① 授業以外にさまざまな業務があることを伝え、学校の組織の枠組みの校務分掌について説明している。
- ② 社会人としてのマナーや常識を示したり、伝えたりしながら、組織人としての自覚を促そうとしている。
- ③ 実習生の今後のキャリアについて、ライフステージを意識しながら、助言している。

➤ 項目3 教育実習指導者としての姿勢・態度



1. 教育実習生への向き合い方に関わること

- ①後進を育成するという意識を持ち、実習生に教職の意義ややりがい等を伝えようとしている。
- ②児童・生徒の成長を願う、実習生の多様な教育観や指導観を認め、自身の経験や考えを相対的に語りながら指導にあたろうとしている。
- ③実習生を成人の学習者として尊重し、共に学び合おうとしている。
- ④実習生の個性や特徴、背景、学びの履歴等を把握し、それを指導に生かそうとしている。
- ⑤実習生の心身の状態等を把握し、それに留意しながら指導にあたろうとしている。
- ⑥実習生の提案やその意図に耳を傾け、積極的に対話をしながら指導に当たろうとしている。
- ⑦実習生が考えている教師のキャリアプランを認め、尊重しようとしている。

2. 教育実習指導への向き合い方に関わること

- ①実習生が所属する大学の組織や教員と情報を共有し、連携しながら実習指導にあたろうとしている。
- ②管理職や他の教員と連携して実習指導にあたるとともに、そこで得られた知見を組織内で共有し、その後の実習指導に生かそうとしている。
- ③実習生と指導者自身のワークライフバランスを大切にしながら、持続可能な実習指導の実践を心がけている。

➤ 「教育実習指導者の専門性」の活用にあたって

この指標は教育実習指導者が自身の指導を振り返ったり、教育実習指導者の研修等を行ったりする際の手がかりとすることを意図して開発されたものであり、教育実習指導者がさまざまな視点に気づき、指導を振り返ることをねらいとしています。教育実習指導者を評価するなど、管理的な運用を意図したものではありません。

この指標では教育実習指導であることを踏まえ、主に学習指導と生徒指導に焦点を当てて資質・能力を設定しています。その内容は多岐に渡るため、教育実習を行う方法、期間、条件等によって、実際にはすべての項目についての指導が実習生に及ぶわけではありません。それぞれの教育実習指導の実態に応じて、ここで示された指標から重点化をはかっていただくことも考えられます。



教育実習指導者の専門性 ～豊かな省察の手がかりのために～

発行日 2025年9月30日

発行者 東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 教職専門性基準開発ユニット

編集 東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 教育実習グループ

連絡先 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 教育実習グループ